

## アースオーガーが水没した場合について

令和元年 10月 15日

三和機材株式会社

台風 19 号による被害を受けられた皆様に衷心よりお見舞い申し上げます。皆様の安全と被災地の一日も早い復興をお祈り申し上げます。

今回、アースオーガーが水没するような被害に遭われた方におかれましては再使用において十分注意していただくようお願い申し上げます。

### オーガー本体が水没した場合

電動モータを搭載したオーガー本体が水没した場合、モータ内部に水が浸入している可能性があります。オーガーに使用しているモータは通常の使用、保管において水が浸入することはありませんが水中仕様のモータではありませんので水没した場合は、内部の分解乾燥が必要となります。モーター内部への水浸入の場合は、弊社へご用命ください。モーター内に水浸入の確認方法として、モーター絶縁チェックの方法がありますので、ご参考までに、添付資料のチェック方法がございます。

(絶縁チェック方法 添付資料 2・6～2・7)

### 制御盤、操作盤が水没した場合

制御盤は漏電遮断器、マグネット、リレー、サーマルリレー、インバータ、PLC など電子機器を搭載しています。操作盤についても微弱電流で動作する機器が搭載されていますので水没した場合は、機器ごとに合ったチェックが必要です。修復にあたっては弊社にご用命くださいます様お願い致します。また、場合によっては、各機器ドライヤー等により、完全乾燥後に再使用可能な場合もあります。

電気機器は水を嫌います。正しい扱いで事故のないようご配慮お願いいたします。

以上

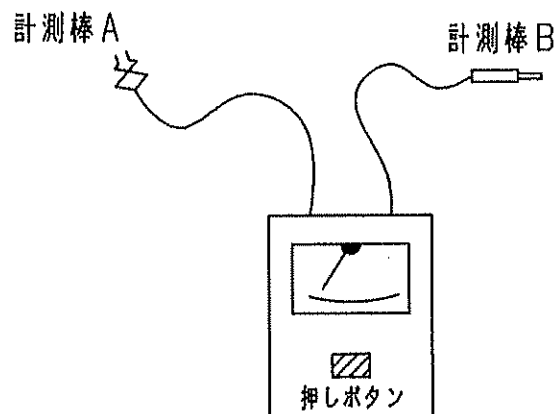
## 2-6 「モータ絶縁抵抗測定要領」

- ・計測棒を当てる部分の塗装を剥がしてください。
- ・絶縁抵抗計(メガ一定格500V)の計測棒Aを、モータ取付ボルトに固定してください。
- ・計測棒Bを端子箱内の端子の一本に接触させ、絶縁抵抗計の押しボタンを押してください。測定値が $2M\Omega$ 以上であれば正常です。
- ・上記と同要領で各端子すべてを実施してください。



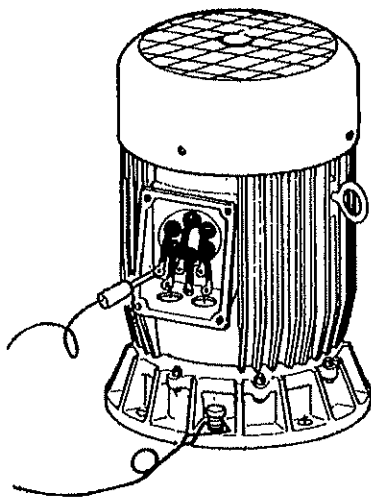
注意

絶縁抵抗計の押しボタンを押した場合には、500Vの電圧がかかりますので計測棒には絶対さわらないようにしてください。

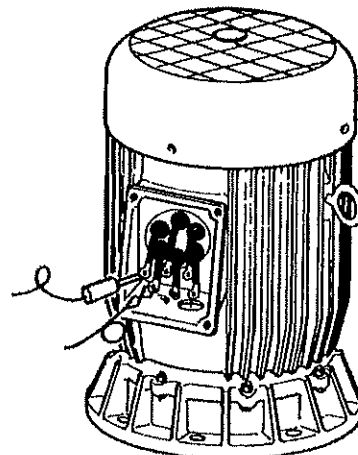


メガテスタ (絶縁抵抗)

40, SAS198  
88-1133-0, SAS1E01

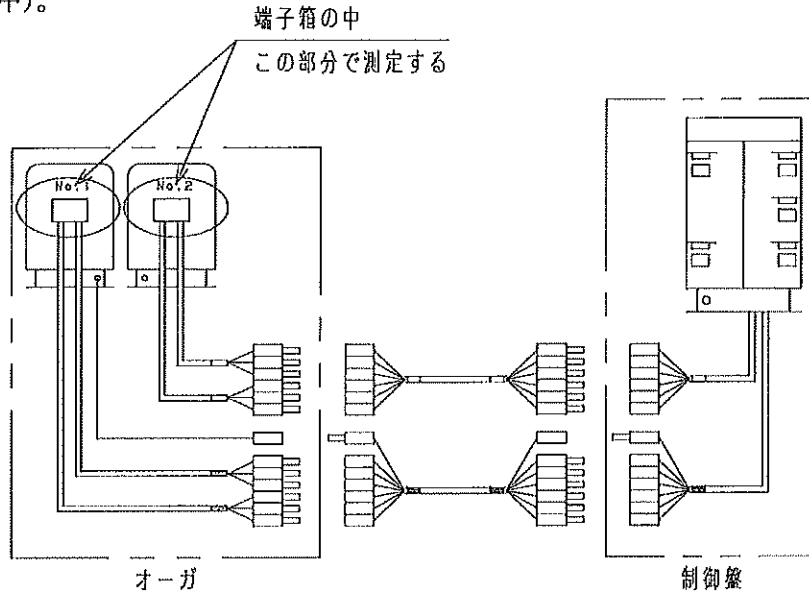


絶縁抵抗の測定



各端子間の測定

- ・モータの絶縁を測定する場合は、極力モータに近い所で測定してください（最善は端子箱の中）。



4G, SAS107  
07-4435-0.

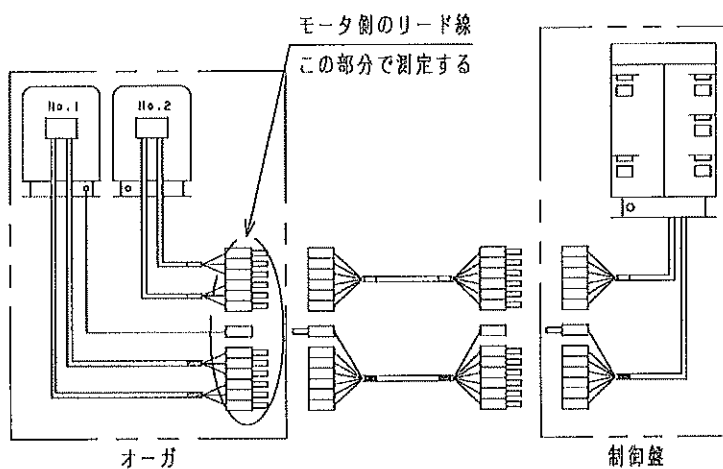
- ・モータまでの間にキャブタイヤケーブルがある場合、キャブタイヤケーブルも含めた絶縁測定になるため、モータ単体での絶縁抵抗値とは誤差を生じますし、トラブルがモータにあるのか、二次側キャブタイヤケーブルにあるのか判断しにくくなります。
- ・同じ要領で各端子を測定してください。
- ・各端子とモータフレーム間の絶縁抵抗測定が完了しましたら、各端子間の測定を行ってください。

## 2-7 「現場における簡易測定方法」

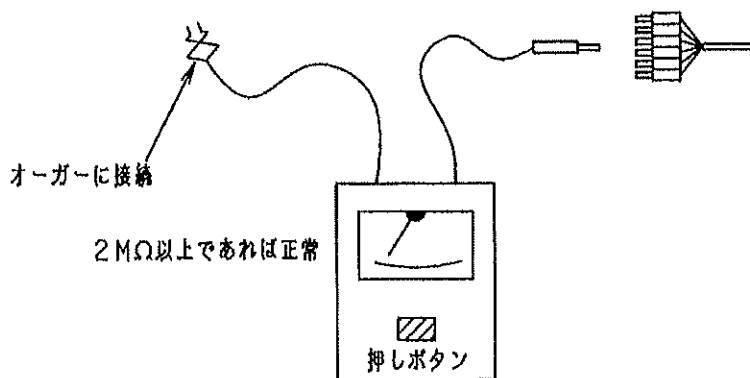
(端子箱を開けないで実施)

### 2-7-1 モータの絶縁抵抗

(モータ引出しケーブル端子とオーガの間)



4G, SAS107  
07-4435-0.

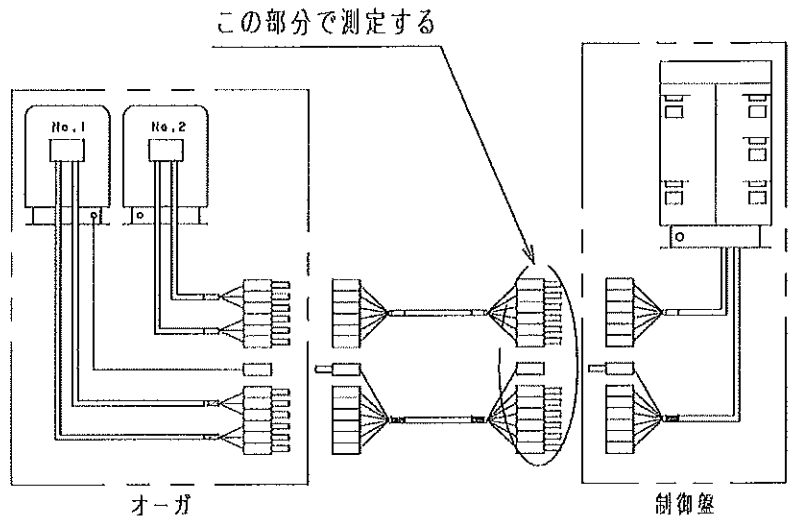


メガテスタ (絶縁抵抗)

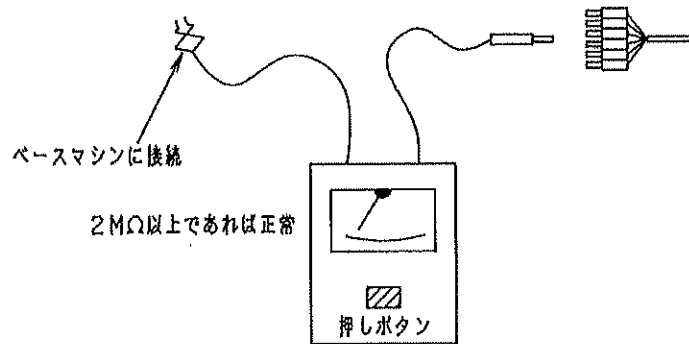
4G, SAS198  
88-1133-0, SAS1E01

## 2-7-2 二次側キャブタイヤケーブルの絶縁抵抗

(二次側キャブタイヤケーブル端子とベースマシンの間)



4G, SAS107  
07-4435-0.



メガテスタ (絶縁抵抗)

4G, SAS188  
88-1133-0, SAS1E01

・次のような場合にはモータ絶縁抵抗を測定してください。

モータから異音がある時

雨降りの次の日

始業点検時に電流値が異常に高い時

保管後の再始動時